

# 千年の森便り No.153

2016.04. 22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

4月17日(日) 雨

参加者は17名；新井孝男、新井通子、秋元、伊藤、鶴沢、及川、大原、苅米、坂本、高橋洋子、田島、成沢、根本、福島、真鍋、村野、山口。

昼前から風雨が強まるとの予報があり、整備班は先行して広場の屋根架け、その他メンバーは植物や野鳥、昆虫観察などのフィールドワークを昼前に行いました。

全伐して明るくなったギャップ林にはニオイタチツボスミシなどスミシ色々花盛り、本降り前に観察・撮影、匂いを嗅いだり、図鑑と照合したり、忙しそうでした。健脚組？は禁断の岬急斜面を降りて、ヒカゲツツジやヒメフタバラン探索に熱中していました。風雨が強まる昼前、差し入れの沢山の山菜を美味しく頂きながら昼食でした。多くの種類の山菜調理にシェフも大忙し、ご馳走様でした。強風に耐える丈夫な屋根シートをかけて下さった整備班の皆さん有難うございました。お陰さまで、昼食後は今年度の年次総会が落ち着いた雰囲気で行われました。(真鍋)



## ○2016 年度総会開催される

及川さん議長のもと、2015年度の活動報告及び決算、2016年度活動計画及び予算が審議され、一部を実態に即して修正のうえ承認されました。また、役員については、久我代表以下全員が再任されました。

2016年実施計画は従前の計画内容を踏襲していますが、ホテイ岬の森林整備、ヒメコマツ植栽地域の下刈り、ギャップ林の植生調査、希少種の存否確認、君津里山 ネットワークへの加入などについて修正・追記を行い、活動内容を明確にしたものです。今年度の活動計画を5-6頁に掲載します。(朱書きは昨年に比して修正・追記の部分)

また、盛りの時期の山菜を持ち寄って楽しい昼食となりました。雨模様の中でしたが、美味しいものがあると自然に笑顔が生まれます。特に山ウドは絶品でした。ごちそう様でした。(伊藤)

## ○昆虫観察記録

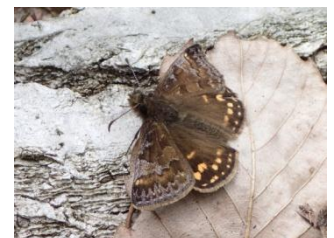
風雨が強まってきたため、観察は約30分で終わりました。福島さんがニホンベニコメツキを見つけてくれたことが、今日一番の発見でした。(田島)

**ミヤマセセリ** 晴れ間に一瞬姿を見せてくれた春の蝶。今年も出会えてうれしい。

**キンケハラナガツチバチ♀** メスだけが成虫で越冬するらしい。無事に冬を越え、金色の毛が輝いていた。

**ニホンベニコメツキ** 毒のあるベニボタルに擬態しているコメツキムシ。コメツキムシには見えないが、掌の中に入れるとピョンピョン跳ねた。

**ナラメリンゴフシ** 若いコナラの枝先に3cmくらいのリンゴ？いえ、ナラメリンゴタマバチが作った虫こぶです。



ミヤマセセリ



ニホンベニコメツキ

## ○新緑の千年の森で植物観察

4月の目玉は「ひ」。ヒカゲツツジとヒメフタバランです。お昼までの活動時間に、真鍋さん、新井（通）さん、秋元さんと4名で禁断の岬北岸に向かいました。

ヒカゲツツジは、数年前の崖の崩落で株が辛うじて崖に張り付いている状況です。今年は残念ながら開花は見られませんでした。しかし、新しい葉が伸びているのを確認できましたので来年の開花に期待したいと思います。

ヒメフタバランは、斑入りのものを含めて約30個体を確認しました。うち5個体では開花も確認できました。小さくて目立たない植物ですが、大切に見守っていきたいと思います。（福島）



ヒカゲツツジ(A)



ヒメフタバラン(A)



水分が多い崖下にはこんな植物も



コバノガマズミ



ミツバツツジ(C)



エビネ(D)

## ○雨に咲く花

雨が気になり入山後直ぐにギャップ林でスミレ探し、フモトスミレ、タチツボスミレ、そして香しいニオイタチツボスミレに翻弄されている時「禁断の岬に出発！」との声がかかりました。面積の1/3も見えていないので後回しに。途中咲いていたのはニガイチゴ、コバノガマズミ、エビネ、ミヤマシキミ、ミツバツツジなどでした。

急な斜面を下りて待っていたのは花後のヒメフタバラン！斑入りも！元気な姿に皆一安心しました。

帰路、巨木林で1輪だけ盛りを過ぎたヒナスミレが咲いていました。ちょっと時期が遅かったのですね。風雨もだんだん強くなり始め、ギャップ林に再び入るのは無理でした。植物など自然の物の活動が旺盛な時期はあつという間に過ぎてしまいます。月に1度だけだと天候などの影響もありどうしてもベストな姿を見逃してしまいます。せめて月に2回の活動日がほしいと思うこの頃です。（新井通子）



アカネスミレ



ニオイタチツボスミレ



フモトスミレ(C)

注1 フモトスミレは4月1日スミレ観察のため豊英島に入林した赤松会員の撮影です。

注2 (A)(B)(C)(D)は千葉県RDBのカテゴリー区分です。

## ○野鳥記録

ホシハジロ 11 トビ 1 (抱卵中) コゲラ声 ヤマガラ声 シジュウカラ声+囀り ヒヨドリ声 ウグイス囀り  
エナガ声 メジロ声 以上 9 種

17日は暴風とスコールのような雨に阻まれて十分な調査ができませんでした。特に豊英島のような森林内では耳からの情報が大切なのに、暴風で小鳥の声がかき消されるので最悪でした。

今回で調査を始めて以来初となるカラス類の記録が途絶えました。このような日には鳴かないのか、聞こえなかったのかはわかりません。トビの声も聞こえませんでした。これも貴重な記録と思っています。

カワウの営巣は昨年限りだったようで、今年の営巣はありませんでした。(坂本)



抱卵中のトビ

←トビが抱卵中でした。両目を開けこちらを見えています。卵が2個あるようです。親はかなり神経質で人が近付くと巣を離れます。無事雛が孵り巣立つまで、人間が邪魔しないよう注意しましょう。(真鍋)



ニホンジカ 4月3日 センサーカメラ画像



4月17日の豊英島

## お知らせ

### ○法人の森活動協定の締結

当会の活動は、県有地である豊英島での活動について千葉県と「法人の森事業協定」を締結して実施されています。3月31日でこの協定が満了をむかえたので、平成33年3月31日までの向こう5年間継続する内容の協定を締結しました。活動内容はこれまでと同様に森林整備と月1回の森林環境教育です。(伊藤)

### ○5月の活動日

5月8日(日) 県民の森自然観察会、植物・野鳥・昆虫調査、ギャップ林一斉植生調査を計画しています。

自然観察会は公開行事で、一般参加を歓迎します。添付「初夏の豊英島と清和県民の森を楽しむハイキング」の要領で実施します。集合は清和県民の森駐車場、9時30分集合です。

### ○6月以降の活動日

6頁「月別活動計画」の通りです。年度中保存して活動に参加下さい。

吉原洋先生が2月23日ご逝去された。自らも植栽にかかわった自宅そばの国道410号線大岩交差点・正木大橋間のカワツザクラの開花を待っていたかのように84年の生涯を閑に閉じられた。

先生は、千年の森をつくる会の歩みにとって欠かすことのできない恩人である。当会の活動の大きな柱の一つは「豊英島の自然の調査と記録」であり、その成果は2012年発行の『豊英島の自然』に結実している。開くと植物目録がある。調査は3回行われ、第2回、3回が会の独自調査である。第2回に取り掛かる時期に、植生調査でご指導をいただいたのが吉原先生であった。



2005年4月29日 植生調査 中央 吉原洋先生

「ヌルデです。羽状複葉が特徴のよく見られる木ですが、秋の紅葉はなかなかのものです。さて、この中にこの木に思い出のある人はいませんか。私も子供のころ、成熟し白い粉がふいた果実をしゃぶって遊んだものです。塩辛い独特の味がします。ここにある瘤みたいなものが五倍子（フシ）といい、昔は女性にとってなくてはならないものでした。時代劇で既婚女性が歯を黒く塗っていたでしょう。そうです、あのお歯黒はこの五倍子が原料です。……」と、独特の語り口で、具体的な話が続き、いつの間にか、参加者の興味を引きだしてくださった。種の説明だけでなく、必ず、人間とのかかわりが語られる、この語り口を、誰いうともなく「吉原節」と名付けて、聞き入ったものである。こうして、調査は専門家に任せればよいというものでなく、会員の力を合わせればやれる、という調査に取り掛かるエネルギーと確信を得て、本会の調査が開始され、積み重ねられたのである。

吉原先生は地元出身ということもあり、里見倉沢の川回しの話や豊英ダムの造成、それに伴う県民の森づくり、昭和40年代までここに住んでおられた旧地主の方の話など豊英島の現在に至る歩みを伝達くださった。また、国民宿舎清和を会場にした宿泊の懇親会にも参加いただくなど、当会が清和地区の方々に受け入れられるように、いろいろ心を砕いてくださいました。「千年の森だより」のバックナンバーをめくると懐かしい顔、そして当時の活動が蘇る。

先生は、君津農林学校を卒業後、千葉大学に進み、理科の教師として活躍され、周西小学校長を最後に退職された。その後、清和公民館長、君津市史編纂協力員、文化財審議会委員、君津市自然保護審議会委員等、多くの役職を歴任するかたわら、日本自然保護協会観察指導員として君津・木更津の公民館や小中学校の依頼を受け、自然観察会の講師として活躍された。また、鹿野山をフィールドとする「こだまの会」代表として多くの自然愛好家の育成に力を尽くされた。

私事で恐縮だが、先生が教職を退職するのを待って、君津市史編纂協力員（自然班）をお願いしたのが、今も鮮明に思い出される。『君津市史自然編』の植物、特に植物目録や校庭の植物などの執筆にご尽力いただいた。自然編発刊後には、その入門編ともいえるべき『君津の自然』（2008年うらべ書房刊）を自然編メンバーである藤平量郎先生、鈴木欣也先生と共同で、出版された。

天にあって「吉原節」を響かせてください。

今までのご活躍とご指導に感謝し、ご冥福をお祈りします。

## 28年度活動計画

会設立以来の活動成果を踏まえ、今後の課題を明確にして、規約第3条の目的達成のため以下の通り活動計画を決定し、実行する。

森林整備	1. 生物多様性保全を基本に、植生保全、ギャップ更新、危険木処理等の位置づけを明確にして除間伐及びブッシュ状低木の除去を行う。 2. <b>ホテイ岬、ギャップ林の植生状況を確認しながら、整備を行う。</b>	
ヒメコマツ	1. 房総のヒメコマツ保全に寄与するため、植栽されたヒメコマツを見守るとともに、ヒメコマツグループの調査などに協力する。	
巨木林調査	成長量調査を継続実施する。	
ニホンジカ など動物生態調査と食害対策	1. センサーカメラによる動物生態調査を継続実施する。 2. ニホンジカ頭数調査を継続実施する。(計4回) 3. 植生保護柵の補修又は改修を行う。	6・9・12・3月
植生調査	1. 植物調査を継続実施する。調査対象、調査記録方法、標本作成方法など必要に応じて改善する。必要に応じて講師又は協力者を依頼する。 2. <b>ギャップ更新地の調査については、新たに方針を決定のうえ望む。</b> 3. 希少種保護のため、その <b>存否確認</b> 及び位置情報の集約を行う。 4. 希少種については、個別に適切な調査保護を行う。 5. 植生調査(食害調査)を継続実施する。	
野生キノコ	1. キノコ観察会を実施する。(夏・秋) 2. リスト・標本作製・写真撮影収集に努める。	7月、10月
野鳥観察	1. 野鳥調査を継続実施する。 2. 営巣等が認められた場合は継続観察をする。	毎月
昆虫調査	1. 昆虫調査を継続実施する。	適宜
照度調査	1. 島内各所、巨木林調査区、ヒメコマツ植栽域の調査を継続する。	年2回
研 修	1. 自然観察会(県民の森・島内)を実施する。 2. 必要に応じて適宜ミニ研修を実施する。	5月 随時
キノコ栽培	1. <b>新たなホダ木を確保し、シイタケ等の栽培を行う。</b> 2. 栽培キノコの収量概略を記録し、ホダ場の保護柵補修を適宜行う。	
広報関係	1. HPを適宜更新し、情報発信に努める。 2. 会報誌『千年の森だより(電子版)』を有効活用する。 3. 「豊英島の自然」を、研究・教育関係機関などに適宜追加配布する。 4. 「続・豊英島の自然(仮称)」の準備に着手する。	
環境整備	1. 水源地保護のため水辺の清掃を実施する。 2. 物置を点検整備し、不要保管物を整理する。 3. 広場・ベンチ・観察路案内板を整備する。	

### <事務局>

- ・名簿管理、事業計画、渉外その他(伊藤)、 会計(根本)
- ・会報発行(真鍋)、
- ・ホームページ・OneDrive管理(福島)、 MLの管理(成沢)

<班編成>

- ・調査班：福島・伊藤・及川・水柿（照度調査、シカ個体数調査、食害調査、巨木林調査）
- ・植物班：真鍋・栗山・新井通子・赤松・秋元・高橋  
（希少種保護、植物調査、種名標示札、写真、観察会）
- ・動物-野鳥班：坂本（動物・野鳥観察調査、記録、センサーカメラの管理）
- ・昆虫班：田島・河野（昆虫調査、写真）
- ・キノコ班：村野・松田・降旗・中田（野生キノコの調査、目録・標本作製、写真、観察会）
- ・栽培キノコ班：久我・高橋（栽培キノコの管理、収穫）
- ・環境整備班：苅米・根本・山口・新井・鶴沢・大原・成沢  
（広場・看板・物置・観察路・案内板等整備、水辺清掃）
- ・安全委員長：久我

月別活動計画

月 日	主な活動	摘 要
4月17日(日) 第3	年次総会、自由散策、危険木処理(選木) 植物・野鳥・昆虫調査	
5月8日(日) 第2	県民の森自然観察会(内部講師) 植物・野鳥・昆虫調査、ギャップ林一斉植生調査	里山シンポジウム 5月15日(日)
6月19日(日) 第3	シカ個体数調査1 環境整備(水辺)、危険木処理、 植物・野鳥・昆虫調査 ヒメコマツ周辺下刈	里山センター総会 6月12日(日)
7月18日(祝)	キノコ観察会(吹春講師)、 植物・野鳥・昆虫調査	海の日 公開行事
8月21日(日) 第3	光環境調査(夏) 植物・野鳥・昆虫調査	
9月19日(祝)	シカ個体数調査2、環境整備(観察路、ベンチ) 植物・野鳥・昆虫調査 ギャップ林一斉植生調査	
10月16日(日) 第3	キノコ観察会(吹春講師) 植物・野鳥・昆虫調査	公開行事
11月13日(日) 第2	ホテイ岬地区整備 ホダ木伐採確保 植物・野鳥調査	
12月4日(日) 第1	シカ個体数調査3 巨木林成長量調査、ホダ木玉切り 植物・野鳥調査 物置整備	
1月22日(日) 第4	ホダ場保護柵整備 植物・野鳥調査	
2月19日(日) 第3	光環境調査(冬)、栽培キノコ植菌 植物・野鳥調査 物置整備	
3月19日(日) 第3	シカ個体数調査4、ヒメコマツ樹高・径計測 植物・野鳥調査	

(備考) 定例活動日の他に必要に応じて、臨時活動日を計画する。